

家族

津守 真

この夏、私は、OME P世界理事会に出席するために、英国ウオーウィック大学に行った。ロンドンからバスで二時間ほどの北西の町、コヴェントリーにある。大学は広い緑の中にあり、夜は毛布をかける程の涼しさで、暑さが絶える間がなかった今年の日本の夏とは大きな違いだった。来年横浜で開催される世界大会の報告をし、まだ決まっていない幾つかのことを相談するという重要な任務があったので、私は一週間を緊張のうちに過ごした。忙しい日程の中で、いくつも考えさせられることがあった。ひとつのことでも、日本から見たときと、南米あるいはアフリカから見たとき、米国から見たときと、見方に大きな違いがあることが分かって勉強になった。

世界理事会の冒頭、世界の O M E P 副総裁である、ブラジルのヴァイタール・テイドネーがひとつの詩を読んだ。子どもが大人に差し出した手紙の形をとっている。印象深かったので、次にその一部を訳して紹介したい。

「国際家族年はわれわれ子どもたちにとって、何を意味するか

——たしかに多くの希望がある——

家族は、私たちにあって、優しさと慈しみ、愛と尊敬のもと
もしも家族がなかったら、私たちは目標も方向もなく迷う

大人たちが、もしも月の砂漠にひとり取り残されたらと想像しよう

あなたが叫んでも、だれも聞いてくれない

慰めや助けを求めても、手を伸ばしてくれる人はいない

(中略)

六歳、七歳の子どもが仕事のために学校をやめねばならない

玩具を道具に、ボールを靴磨箱に、人形を掃除モップと水桶にかえる

それでも世界に正義はあるのか

多くの親たちは、精神や身体の発達に欠陥のある息子や娘をどのように育てたらよいか

を知らない

障害のある子どもをもつことになった事実をすら受け入れない

最初は

この特殊な子どもたちを、他人は憐れみと軽蔑の目で見る

こんな子どもたちが生まれたのは、親が何か悪いことをしたからだろうと考える

親たちは自問自答する われわれのどちらが悪かったのか

そして神にたずねる なぜ 私たちにこんな重荷をと

後には

この子は、特別な必要をもっているから、夜も昼も、そしてしばしば一生涯にわたって

私は、多くの時間と、多くの労力を献げようと

そして終に

この子は障害児なのではない われわれに挑戦している子どもなのだ

この子の特別な必要に答えるのには 私たちは学びつづけねばならないと

知るようになる

だれが、親たちに、この子を教育し、その発達を助ける仕方を教えるのか

この子たちを、荒涼とした部屋の折り畳み式ベッドの上に捨てるのをやめるように

だれが教えるのか

耳が聞こえず、口のきけない子どもを育てる親たちを

この子たちが考え、想像し、コミュニケーションし、そのほか多くのことをするようにする、その力を発達させるのに、だれが親たちを教えるのか

障害をもった子どもの母親は、力萎え、無関心になっていた、そこから脱出したとき

彼女は聖者か、反逆者になる

苦悩を希望にかえ、その魂を光で満たし、その声に愛を籠める母親は

子どもに優しく寄り添う力を見いだしている

彼女は 善意に澄みきっている、私の母親はこんな友人をもっている

彼女の顔の笑みは美しい

しかし、この子の故に仕事をやめねばならなかったと、子どもを責め、

忍ばねばならぬ、はてしのない雑事のみしか見ていない母親の心は、

苦痛と憤りに満ちて、重い

彼女は、理解と、いたわりと、助力を必要としている

このような母親は、心に幸福がなく、

子どもの悩みにも、自分の苦悩にも安らぎをえない

私は天才的に才能のある友人を知っている

彼は、才能のある子どもたちはしばしば家庭で理解されないと言う

両親は彼らを自分たちの虚栄心と誇りの対象とする

そして他人に自慢するために、演技を要求する

あるいは、子どもの方が進歩していて、要求が多いので

両親はそれに耐えきれなくなってしまう

天は、彼らの人生に特別な使命を与えることなしには

才能ある子どもを創りたまわなかったと、私は信じる

それは機械や薬を発明することかもしれない

あるいは人間を守るための問題を解決すること

人の目や耳を喜ばせる音楽や詩や芸術

あるいは、地球上のより高い正義に向かって新しい道を開くことかもしれない

しかし、もし彼らの特別な才能がさらに伸ばされなかったら

サッカー選手がネットで良い機会があるのに、ボールを場外に蹴ってしまうように

我々はこの恵まれた機会を失い、天の賜物を浪費することになる

才能のある子どもは、幼稚園の年齢になる前に、家庭の中で、その才能を伸ばすか、失

うかしてしまふ

しかし、この子どもたちの必要に答える方法を知っている家庭は少ない
O M E P はそれに対して何かなし得るか

ここで最も重要なことを私はあなたに告げなければならない
子どもたちは遊ぶことを愛すると

彼らが宇宙の主人でいられたら、昼も夜も遊びにつかうだろう

疲労と眠りのみが、苦勞せずに、遊びから子どもの気をそらすことができる

ある子どもたちは、おもちゃの真ん中で眠ってしまう、人形を抱いたまま

電車や、トラックや、積み木やパズルに囲まれて

親たちとの最大の論争は、遊びを中断し、

大事なおもちゃを残して食事ゆき入浴するとき起きる

(中略)

この手紙は長くなって私は疲れた、あなたももうすぐ終わりになることを願うだろう

最後に、私は言いたい、子どもたちは親を愛する、そして家族を愛すると

我々を家族に結び付ける躰の緒は、我々の身体と魂を発達させるのに必要な

栄養とエネルギーと愛とを供給しつづける

それがなかったら我々には何も残らない

子どもたちは人生の多くのものを象徴している（未来、希望、よりよい世界の約束……）
あなたは家族が、健康で幸福な発達の良い風土となるための
平和の港となるように、あなたの最善をつくすようお願いする

理事会の冒頭、この長い詩が読まれ、人々は耳を傾けた。私は何度もうなずき、子どものことは世界共通に語れることを再認識した。

夏の終わりに、私の親しい方が突然亡くなった。小学生と中学生の子どもの母親で、まだ三〇代の若さだった。夕方、台所で夕飯の支度の最中に倒れ、中学生のお嬢さんが救急車で病院に運んだが、そのままだった。数か月前から、難病をかかえていることが分かり、それ以来、日常生活は普段の通りだったが、家族以外の人と会うことを拒否しておられたという。通夜の晩、ご主人が話されたことによると、この数か月、家族が一緒に過ごす時間を大切にしながら、これまでになく心の深いところでの交流がお互いにあったという。そして、妻が死んでからはじめ、この十数年の家庭生活が、天からの賜物だったと分かったと話された。大学の工学部を卒業して、人並み以上に高い能力をもったこの若い母親自身、家族と純粹に生きるところに最善の人生があることを悟っておられたらしい。こ

の若い夫婦のご両親たちは、この数か月間、家族の結び付きが強いので、傍に近寄ることもできなかつたと語られたが、こういう危機に出会うと、家族の原型は、夫婦と子どもたちにあることが分かる。私は、「人は父母を離れ、夫婦が一体となる」という聖書のことばを、家族の観点から見せられたように思った。そのひとりが欠けたことに心が痛むが、ここで育まれた家族の愛は見えないところで生き続けるに違いない。

(愛育養護学校)

